

# H1N1 新型インフルエンザ輸入ワクチン

～今回の経験を今後にもどう活かすか～

平成22年5月19日

グラクソ・スミスクライン株式会社

# ワクチン接種を迅速・広範に実施するために

- 今回供給した包装単位
  - 10接種分/1バイアル x 5バイアル/箱 (計50接種分)  
<理由> ① 集団接種(迅速・効率的接種)  
② 生産の迅速化・効率化  
<参考> 日本以外での包装単位 50バイアル(計500接種分)
- 経験した問題点
  - <供給体制における問題点>
    - 供給時期と供給包装単位の決定に時間を要した。
  - <接種における問題点>
    - 50接種分の包装単位は個院で使用しづらい。
    - 接種率の低さ → 個院での接種対象者が集まらない。
- 解決策
  - 接種の仕組みの工夫(集団個別的接種など)
  - 政府による接種推奨の徹底
  - 事前購入契約による供給体制の早期確保
  - 供給スケジュールと接種プログラムとの連動

# ワクチンを経済的に使用するために

- アジュバントの有効利用:  
GSKのアレパンリックスは、抗原とアジュバントを用時混合して接種
  - アジュバント:少量の抗原で予防接種効果が得られる。
  - アジュバントの有効期間は3~4年であり新たな抗原と入れ替えることにより接種が可能である。
  - アジュバントは、H1N1だけでなく、H5N1と組み合わせ使用が可能である。
  - アジュバントの活用により、新たなウイルス予防と高い経済効果が期待できる。
- 問題点
  - 「抗原+アジュバント」としての「特例承認」のため、新たなパンデミック発生時に迅速な対応ができない。
- 解決策
  - 「通常承認」により、抗原変更で緊急時柔軟な対応が可能となる。

